



園内の各売店で「ビントロング」ポップコーン(税込500円)も販売中! ※種類は変わる場合があります。



ビントロングは「しよくにくもく食肉目ジャコウネコ科」の仲間で、なんとポップコーンのようなにおいがする不思議な動物! ざっしよくせい雑食性で、動物園ではリンゴ、バナナなどの果物の他、ゆで卵や馬肉も食べるんだ。



ねったい う りん熱帯雨林の木の上で生活しているため、木登りが得意。登りやすいように「かぎ爪」をしているし、太くて長いしっぽ(尾)は、木の上でバランスをとるのに役立っているよ。



爪



尾

胴体と同じ程の長さ!

ず〜 Zooっと平川



特集1

これも飼育員の一日! 「かごしまの動物ゾーン」

特集2

ホッキョクグマのライトがやってきた!

特集3

ありがとう! ブンダ特集

アミノクロウサギ (アマクロ) 一般公開記念



「アマクロ【テツコ】のおしり」が登場!!

これまでも、「肉球カフェオレ」や「コアラソフト」、ホッキョクグマの【ライト】バージョン「ヨーグルト白くま」など、動物にちなんだ平川らしいスイーツを提供してきましたが、アミノクロウサギの一般公開に合わせて登場したのが、この「アマクロ【テツコ】のおしり」。奄美諸島産さとうきびを100% 使用した国産素焚糖・国産きなこ・黒ゴマの風味の和スイーツ。

アイス入り大福と白玉、蒸し有機あずき(有機きび糖使用でほのかな甘さ)で、かわいいおしりに仕上げました。アミノクロウサギ観察の後に、ぜひご賞味ください。

※使用食材の入荷の関係で、価格が変更となる場合があります。ご了承ください。

食堂

¥400(税込)



鹿児島市 平川動物公園
〒891-0133 鹿児島県鹿児島市平川町5669-1
TEL.099-261-2326 FAX.099-261-2328
■開園時間:午前9時~午後5時(入園は午後4時30分まで)
■休園日:12月29日~1月1日
URL <https://hirakawazoo.jp/>
Facebook <https://ja-jp.facebook.com/hirakawazoo>
Twitter <https://twitter.com/hirakawazoo>
YouTube <https://www.youtube.com/c/hirakawazoo>
動物取扱業の種別:展示、販売、保管、貸出 登録番号:生衛動取 第614号、第615号、第616号、第617号
登録年月日:令和3年5月11日 有効期限の末日:令和8年5月11日 動物取扱責任者氏名:桜井普子

携帯サイトへアクセス!



ZOOっと平川 vol.38 2024年2月発行

編集・発行



〒892-0816 鹿児島市山下町15番1号
TEL.099-221-5055 FAX.099-223-5690
URL <https://k-kouenkousya.jp>
Facebook <https://ja-jp.facebook.com/k.kouenkousya>

これも/ 飼育員の一日



かごしまの
動物ゾーン

毎号飼育員の一日を追っているこのコーナー。私たちは「かごしまの動物ゾーン」の他にも「は虫類・夜行性動物館」を担当していますが、今回は奄美大島に暮らすルリカケスとアマミノクロウサギについての仕事、思い…をお伝えします。

平川動物公園のルリカケスたち

ルリカケスは動物園では東京都恩賜上野動物園と当園の2園だけでしか飼育されていません。現在、当園では5羽のルリカケスを飼育しています。近年、平川動物公園ではルリカケスの繁殖は上手くいっていませんでしたが、最近繁殖期に求愛行動のプレゼンティング(オスがメスにエサを運び、プレゼントします)を盛んに行い、営巣行動も頻繁にみられるようになりました。昨シーズン、ペアの一つはプレゼンティングしか行ってくれませんでした。もう一つのペアは巣を最終段階まで完成させました。後は産卵を待つのみでしたが、なぜか急に巣箱に入らなくなってしまいました。営巣を促すために飼育員の手で巣材を巣箱に入れたりしましたが、繁殖行動はそれ以降確認することができなくなりました。それから2週間ほど経過したある日の清掃作業中、地面に落ちたルリカケスの青い卵を発見しました。残念ながら卵は割れており、無精卵でした。しかし、産卵までは辿り着くことができました。次の繁殖期では雛が孵化してくれるように工夫を行っていきたいと思います。



繁殖期に備えてドングリをくわえるルリカケス



2022年に産卵したルリカケスの卵

奄美大島での域内保全活動

ルリカケスの繁殖期(主に12月~3月)が終了した時期に、毎年、上野動物園と平川動物公園の職員、そして、「NPO 法人奄美野鳥の会」の方々と一緒に巣箱調査を行っています。奄美野鳥の会が設置した巣箱の中を清掃したり、壊れた巣箱の修繕を行うのです。巣箱の中には野生のルリカケスが作った巣が入っているため、動物園での飼育の参考になります。ルリカケスが使う巣材は様々で、基本的には枝を多く利用します。その中でも、ルリカケスの力で簡単に加工することができるツル植物を多く利用していました。稀に針金やクリップ等を利用するルリカケスもいるそうです。現地に出向いて保全活動を行ったり、活動の内容を動物園で紹介することも私たちの仕事の一つです。



ルリカケスが実際に使用した後の巣箱を確認



劣化した巣箱は修理してまた使います

かごしまの動物ゾーン担当: 山田

▼28年振りアマミノクロウサギの展示を行っています▼

アマミノクロウサギってどんな動物?

奄美大島と徳之島だけに生息しており、1000年以上前の原始的な形質を残したまま、180万年前に大陸側から南西諸島に分布を広げてきたと考えられています。約1万年前に奄美群島が現在の形(島)になり、大陸側にいた同種は滅びました。学術的にも貴重な種であり、国の特別天然記念物に指定されています。展示をするようになったのは、2019年から飼育を行っている「テツコ(メス)」です。



アマミノクロウサギの保全状況

ハブの駆除目的で人為的に導入されたマングースによって捕食され、一時期数が激減しました。2004年には「国内希少野生動植物種」に指定され、現在は国の保護増殖事業に基づき、生息状況のモニタリング調査や交通事故防止対策などが行われています。特に2000年から実施されている外来生物防除事業により、2018年以降マングースがワナにかかることがなくなり、2024年度初頭に根絶宣言が出される見込みです。奄美大島での生息状況は近年回復傾向にあるものの、それに伴って、交通事故にあう個体も増えていることが問題になっています。



交通事故問題

夜行性で開けた場所を好むため、暗い道路上に出てエサを探したり、そのまま道路上で休息することもあるそうです。繁殖のピークである秋には、活動が活発になり事故にあうリスクがさらに高まります。見通しの悪い林道での事故の他に、速度を出しやすく交通量の多い県道・国道での事故が目立っていることから、事故多発道路への侵入防止ネットや注意看板の設置、ステッカー配布などの普及啓発活動も積極的に行われています。テツコも道路でうずくまっていたところを保護されました。島内の動物病院へ運び込まれ、一命は取り留めたものの、事故の後遺症で顎が歪んで噛み合わせが悪くなってしまいました。ウサギの歯は伸び続けるため、上手く噛み合っていないと伸びすぎて、エサを食べることができなくなってしまいます。そのため、現在も月に一度は全身麻酔をかけ、検診と歯を削る処置を行っています。



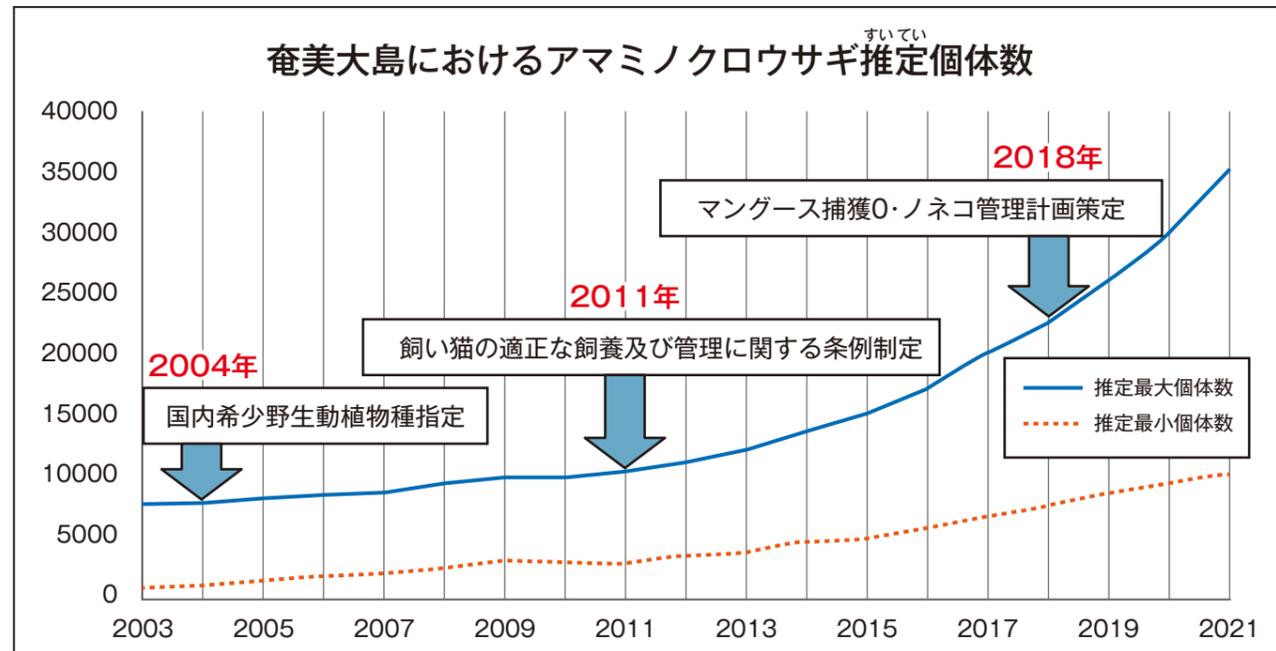
月に一度の検診の様子



歯のチェックは欠かせません

ノネコ・ノイヌ問題

ノネコによる捕食被害やノイヌによる大量死も確認されています。ノネコやノイヌは元々人に飼われていたネコやイヌが逃げ出したり捨てられたりして、山や森林の中で生きようになったものです。彼らが在来の希少動植物を捕食することで生態系が乱れてしまいます。また、本来人と暮らすように適応してきたイヌやネコにとって野山での生活は過酷なものです。2018年3月、環境省、鹿児島県、そして奄美大島の5市町村が共同で「奄美大島における生態系保全のためのノネコ管理計画」を策定し、連携して対策に取り組んでいます。この計画では主に①森林域からのノネコの排除②ノネコの発生源対策の2本の柱が設定されています。



環境省 九州地方環境事務所HPより

▼アマミノクロウサギ公開までの道のり▼

どこで?どのように?展示するか

まずは展示場所を決めます。昼間はじっと巣穴の中で過ごすので、昼夜逆転することができる「夜行性動物館」を選びました。しかし、単に暗くしたからといって活発に動くかどうかはわかりません。ホンドテンの「テンスケ」を隣の部屋へ移動させて、空いた部屋を改装し、展示することに。安心できる場所があると新しい環境でも落ち着きやすいため、新しい巣箱は移動の一月ほど前には準備しました。最初はエサを置いてもなかなか入ってくれず苦戦しましたが、しばらくすると中で休んでくれるようになりました。それと並行して、展示室の準備に着手。穴掘り用の箱に土を入れ、身を隠せるよう丸太なども用意しました。事故のリスクを考え、必要最低限のものでレイアウトし、新しい環境に慣れるまでは来園者からは見えないように目隠しをして見守りました。特にガラスには注意が必要で、衝突防止の黒いテープを貼り、ガラスを認識しやすくしました。



巣箱で休むテツコ

新居へ移動

8月27日の朝、獣医師の立ち合いのもと、テツコを巣箱ごと展示室へ移動させました。匂いで落ち着くことができるよう、糞尿の付着した土を少量置いておき、好物のイヌビワもたっぷりと与えました。3日ほどは巣箱に籠りきりで、いつの間にかエサが減っている程度だったのですが、だんだんと行動が変化してきて、採食している様子が見られるようになりました。この頃になると、穴掘り用の箱とすのこの間でじっとしていることが多く、お気に入りの場所になったようでした。ここまで慣れてくれるのに、1週間。体重が少し減ったこともあり、アマミノクロウサギの繊細さ、飼育の難しさを感じましたが、無事9月14日の公開日を迎えることができました。



お気に入りの場所で休むテツコ

展示場での様子

最近では開園時間中のほとんどを採食して過ごし、毎日昼過ぎには走り回って活発な様子を見せてくれています。巣箱に全く入らなかったり、穴掘りせずに伸びきって寝っ転がったりと、想定外で大胆な行動の多いテツコには驚かされてばかりではありますが、アマミノクロウサギの魅力や野生下での現状等を伝える自然からのメッセンジャーとしてこれからの活躍を期待しています。

さいごに

当園では現在、3頭のアマミノクロウサギを飼育していますが、うち2頭は後遺症が残り、野生復帰は見込めない状態です。これまでも大学と協力して、生態などの研究に取り組みしてきましたが、このたび生体展示を通してより多くの人々に興味関心をもっていただくことを目的に公開する運びとなりました。アマミノクロウサギに限らず、多くの野生動物たちが人間との関わりの中で傷付いています。車の運転で気を付けるべきこと・ネコの室内飼い推奨・新たな家族を迎える時には保護ネコという選択肢もあるということ…私たちができることを考えるきっかけとなれば、この展示は成功と言えるものになりそうです。



私たちができることは...

夜行性動物館担当：大沼

特集2

ホッキョクグマの ライトが やってきた!



2023年3月9日午前、平川動物公園に2年半ぶりとなるホッキョクグマが来園しました。今回、和歌山県のアドベンチャーワールドからやってきたのは、9歳のオスの「ライト」。将来、繁殖をする目的のために平川動物公園にブリーディングローン(繁殖を目的とした貸し借り)という形で来園しました。

私たちはまず、ライトの状態を確認し、ホッキョクグマ舎で搬入作業に取り掛かりました。ライトは扉を開けてすぐに寢室に移動してくれ、長旅で疲れていたのか水をたくさん飲み、寢室に置いていた馬肉やホッキョクグマ用のペレット(固形飼料)もすぐに食べてくれました。食べ終わってからライトは飼育員や新しい環境の匂いをずっと嗅いでいました。



様子を確認してから寢室に移動するライト



まずは、私たち飼育員と寢室に慣れてもらうため、1週間ほど屋内で様子を観察しました。同時に今まで屋内で生活してきたライトをどのように外の展示場に慣らしていこうかと作戦を練っていました。

そして、外に出る練習初日の3月14日。前日までにプールの水をすべて抜き、転落防止のために乾草や竹などを敷き詰め、世界のクマゾーンは通行止めになりました。はじめは久しぶりにみる太陽や新しい匂い、音に警戒してなかなか出てきませんでしたが、徐々に外を歩き回るようになったため、この日は練習を1時間ほどで終了しました。転落防止材を取り出してプールに水をため、練習2日目に挑んだところ前日より早く外に出ることができました。しかし、なかなかプールに近づかないため魚を投げてみると、やっと水に入って泳いでくれました。

その日から徐々に練習時間を長くして外に慣れてもらい、3月22日に公開することができました。練習の成果もあり、すんなりと展示場に出て、プールで泳ぐ様子も見せてくれたのでホッとしたのを覚えています。



プールの底に転落防止材を敷き、エサを陸に置きました



展示練習中!

公開後しばらくは寢室にいることが多かったのですが、梅雨の頃には雨の中を泳ぐ姿が見られるようになってきました。プールで泳ぐ時間が増えた夏の間、セイカ食品株式会社様から頂いた氷で遊んだり、プールに沈んだ魚を食べたりと環境に慣れ、外で活発に動き回る様子が見られるようになりました。



プイで遊ぶライト。日替わりで複数のおもちゃを使っています。

きっとこれからも様々な行動を見せて私たちを楽しませてくれるであろうライト。鹿児島ではもう見られないと思われていたホッキョクグマがやって来てくれたことに感謝し、少しでも多くの人々がライトを通して絶滅危惧種であるホッキョクグマに興味を持ち、二酸化炭素の排出量の削減やプラスチックゴミの削減など、環境に優しい行動を意識して過ごしてもらえよう、様々なシーンでお伝えてしていきたいと思います。

これからも、ライトのおかげで更に賑やかになった「世界のクマゾーン」をどうぞよろしくお願い致します。

世界のクマゾーン担当: 蒲地



カピバラ「ハニー」

性別:メス
 生年月日:2016年8月12日
 分類:齧歯目カピバラ科
 分布:南アメリカ
 食性:草や木の葉など

5月11日、熊本市動植物園からやってきました。もともからいるソテツ(オス)のお嫁さん候補としての来園です。性格は人懐っこく、他人のエサを欲しがると食欲旺盛です。

同居初日こそ、お互いに立ち上がったの大喧嘩を繰り返した2頭でしたが、翌日からは徐々に距離が縮まっていき、今ではほとんどの時間を寄り添って過ごしています。

これからは、赤ちゃんの誕生を目指して、飼育担当者ともども頑張ってもらいますので、ご期待いただけたらと思います。



立ち上がって大喧嘩



最近の仲睦まじい様子(左:ソテツ・右:ハニー)

今では
 こんなに
 仲良し

アルダブラゾウガメ「イッテツ」

性別:オス
 生年月日:不明
 分類:カメ目リクガメ科
 分布:セーシェル諸島及びアルダブラ環礁
 食性:草や木の葉、果実など

6月29日に千葉市動物公園から来園しました。

気になる年齢は残念ながら不明、体重は約200kgもあります。

当初は鹿児島島の暑さに体が慣れなかったのか、プールや土がぬかるんだ場所にいることが多かったのですが、最近は動きが活発になってきました。他の3頭のゾウガメたちは、自分より遥かに大きいイッテツを前に最初は避けていましたが、今では新たな群れの仲間として認めているように感じます。しかし、エサの時間になると話は別なようで、イッテツが近くに来ると警戒の声を出して接近を拒みます。イッテツはあまり気にしていない様で積極的に近づいていくので、これからはエサも仲良く4頭で食べてくれれば良いかと期待しています。



公式ホームページブログ「イッテツきたる1.2」他ぜひお読みください!



イッテツきたる1



イッテツきたる2

あかちゃん紹介

むぜもんじゃ

むぜもんじゃ:鹿児島弁でかわいいねの意味

コアラ(タイヨウ)

父親:タイチ
 母親:インディコ
 性別:オス
 生年月日:2022年8月11日

こんな動物

分類:有袋目コアラ科
 分布:オーストラリア東部
 食性:ユーカリの葉

母親のインディコの初めての子どもです。太陽のように輝き、明るく元気に照らしてくれるような存在になってもらいたい、8月生まれなのでぴったりの名前ということで「タイヨウ」と名付けられました。

性格は好奇心旺盛で、やんちゃです。



2023年2月10日、全身が育児嚢(ポケット)から出ています。3月3日の体重測定の様子です。落ち着いてもらうため、ぬいぐるみにつかまってもらっています。外に出る時間が少しずつ増えています。



名前は一般公募により応募のあった総数541票の中から選定会議を行い決定しました。

5月27日には命名式を行い、代表で1名の命名者の方に来ていただきました。

担当者より一言

たくさんのお応募ありがとうございました。皆さまのおかげで素敵な名前を付けることができました。タイヨウは活動的な性格で元気に育っていますので、ぜひ会いに来てください。



ありがとう！ブンダ特集

コアラ界のビッグデータ ブンダの軌跡

ブンダは2010年9月15日にオーストラリア・シドニー水族館で生まれたオスのコアラです。当園には2014年10月2日に来園しました。

オーストラリアから当園にコアラが来園したのは、なんと約30年ぶり！！ブンダと共にフランク(オス)、ブランドィ(メス)というコアラも来ました。

なぜ来園したかという、国内のコアラたちの血統更新のためです。国内の動物園だけでコアラを繁殖させていると血縁関係があるコアラが増えてしまい、いずれは飼育数を維持することが困難になるからです。



2014年10月2日来園時

長旅でとても疲れた様子でしたが、無事に到着してホッとしました。

2014年10月25日

当園に来て3週間ほどたった頃。環境にも慣れてきました。この日はコアラ来園のセレモニーがありました。



セレモニー風景。地元の園児や多くの方が歓迎してくださいました。



2014年11月20日

晩年と比べると鼻が黒くて幼い様子です。

2018年9月

隣の展示場にいたバンブラ(オス)が柵を乗り越え闘争になり、ケガを負いました。コアラの身体能力の高さについて改めて知ると同時に、このような事故が起こらないよう対策をとりました。

2023年8月20日にコアラのブンダが亡くなりました。

今までたくさんの方から愛されてきたブンダの思い出を振り返ります。



2022年8月

体色が薄くなり、少しずつ老いが見られ始めましたが、テリトリーコールをするなど元気いっぱいでした。



2023年2月

12歳と高齢になり体調を崩すこともありましたが、たくさんユーカリを食べてくれて元気になりました。



ブンダといえば、ホウキや掃除用バケツに付いた他のコアラの匂いをチェックするのが日課でした。



2023年8月20日

亡くなりました。死因は消化器系疾患と考えられます。

ブンダの子孫一覧

子		孫	
個体名	性別	個体名	性別
リオ	メス	イツキ	オス
イト	メス	ライト	オス
イシン	オス	インディコ	メス
ユイ	メス	おもち	メス
レイ	メス	アイ	メス
ヒナタ	メス	ひ孫	
ピース	メス	個体名	性別
ノゾム	オス	タイヨウ	オス



ブンダは長年にわたり多くの人に親しまれてきました。また、多くの子孫を残し、国内のコアラの個体群維持に大きく貢献してくれました。

亡くなった際は、お客様からたくさんの献花をいただきました。ブンダは本当に皆様から愛されていたんだと感じました。これまで温かく見守っていただきありがとうございました。